

海外メディアの関心はどう応えるか

—ランダースWS J 東京支局長らと懇談—

2023年7月11日

講師：ピーター・ランダース

ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局長
リバー・デービス

ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局
企業担当記者



経済広報センターは7月11日、東京・大手町の経団連会館で、ウォール・ストリート・ジャーナル（WS J）のピーター・ランダース東京支局長、リバー・デービス同支局企業担当記者との懇談会を実施した。企業の広報担当者ら約80人が参加した。

ランダース氏は、生成AIの出現等により誰もが大量の情報を容易に収集できるようになっている一方、Twitter運営会社を買収したイーロン・マスク氏が、同社の問い合わせ窓口を事実上閉鎖するなど、著名経営者が閉鎖的な広報戦略を採るなどして取材が困難になっている事例等を紹介した。

さらに、広報担当者向けの実務的なアドバイスとして、企業サイドが海外メディアの記事を分析し、記事に足りない要素を積極的にアピールすることで、海外メディアが取り上げやすくなると指摘した。

また、デービス氏は、海外投資家による日本株への注目が高まるなか、日本企業が海外向けに積極的に情報発信する重要性が増していると説明。海外の読者が興味を持ちやすい具体例として、テコンドーの有段者でもある米ナスダック社のアデナ・フリードマンCEOに関する記事を紹介し、経営者の「人物像」に着目した記事が好まれると指摘した。さらに、日本企業の広報担当者は、海外メディア対応に関する広報戦略を立案し、取材・記事の内容について海外メディアと議論し、時には交渉することも必要になっていると述べた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。